

情熱の



写真・文

津島修三

(秋田市在住)

もうすぐ秋田は小正月行事の季節になる。現在男鹿半島一円で大晦日に行われている「なまはげ行事」も元来は小正月の行事だったようだ。今年も2月9日から11日まで男鹿半島真山神社境内で繰り広げられる「なまはげ柴灯(せとまつり)」は、この民俗行事と真山神社の神事である「柴灯祭」を組み合わせて観光行事化したものである。

真山神社直下には平成9年に、通年でなまはげ行事を再現して見せてくれる「男鹿真山伝承館」が開設され、ついで平成11年に、集落ごとに実際に使われていたなまはげの面の展示と映像でなまはげ行事を紹介する「なまはげ館」が誕生し、両館は共通券を発行してなまはげに理解を深める機会をつくってくれたのだ。

ことに、伝承館のなまはげの実演が素晴らしい。夏期は連日1日13回も、12月から3月までは土日祝日のみだが1日6回、実際に目の前でなまはげ行事を再現してくれる。これには観光客は大いに感動する。子供や新妻を怖がらせるだけの野蛮な行事だと思いついていた人も、むしろその逆に、ほのぼのとした人のぬくもりの伝わる行事であることを知る。私自身も、秋田を訪れた知己がなまはげに驚き喜ぶ様子が嬉しくて、年に何度も客人を伴って両館を訪れているのだ。

「なまはげ館」には、来館者がなまはげの衣装を身につけられる「なまはげ変身コーナー」があり、こちらも観光客の人気を呼んでいる。いささか手前味噌ながら、私も去年の夏に親戚を連れて行き、ここで記念写真を撮って、帰ってからプリントしてみたら、その時は衣装を身につける順序などの説明書きが背後の壁の真ん中に張ってあり、それが写真に写り込んでいた。それがちよつと無粋に感じたし、セットの後ろの大きな一枚ガラスの窓からの逆光で撮影に失敗する人もいるのではないかと気になった。僥倖ながら、そのことをメールに書いて「なまはげ館」に送っておいた。それからしばらくしてまた「なまはげ館」を訪れたら、ちゃんと説明書きが別の場所に移され、窓には逆光を抑えるシールドまでおろされていた。この対応の素早さに私は感動して、思わず支配人さんにお礼を申し述べたのだ。

「なまはげ館」は今年中には入館者が100万人に達する見込みだとか。遠くからのお客さんのために年中無休。なまはげ柴灯まつりの三日間は時間を延長して夜8時まで開いている。

男鹿のなまはげ人たちはなかなか情熱的なのだ。

